「誰か」のこと じゃない。

このポスターは、「東京2020公認　人権啓発キャッチコピーコンテスト」にご応募のあった8,749作品から選定された最優秀作品を基に作成したものです。法務省の人権擁護機関では、このキャッチコピーを「啓発活動重点目標」として掲げ、一人一人が人権を尊重することの重要性を正しく認識し、他人の人権にも十分配慮した行動をとることができるよう、各種の人権啓発活動を幅広く展開します。

ココロンセンターライブラリー

人権問題に関する書籍、まんが、絵本、DVDの貸出を行っています。ぜひ、ご利用ください。

書籍紹介

もっと知りたい！話したい！
「セクシュアルマイノリティ　ありのままのきみがいい」

「セクシュアルマイノリティについて」「わたしの気持ち、みんなの気持ち」「未来に向かって」の全３巻で構成され、中高生対象にわかりやすく書かれています。多様な性、生きづらさ、企業や学校の取組、相談窓口等、セクシュアルマイノリティ（性的少数者）当事者も、そうでない人も、自分の性について考え、誇りを持って生きていくための手引き書となっています。大人にもぜひ読んでほしい３冊です。

著者：日高 庸晴　発行所：汐文社

「職場のパワーハラスメント」をなくすためのおすすめのDVDを紹介します。

おすすめDVD

ハラスメントのない職場づくり（全3巻）

第１巻：新入社員・若手社員編（23分）　第２巻：中堅社員・管理職編（28分）
第３巻：工場・作業現場編　　（25分）

各巻に３つのケースドラマ（パワハラ、セクハラ、マタハラ）が入っており、その後、２つの設問による「ディスカッションガイド」、及び「ハラスメント解説」が示されています。これに沿って研修を組むことで、ドラマを視聴して終わりではなく、その後、社員同士がディスカッションすることでハラスメントへの理解を深めるための内容となっています。

正解不正解を議論するのではなく、一人一人の感じ方を自由に発言することにより、それぞれの感じ方の違いを理解することが大切です。ハラスメントのない職場づくりに向けての研修に役立つ DVD です。

監修：岡田 康子　クオレ・シー・キューブ　　制作・著作：日本経済新聞出版社

「ココロンセンターだより」No.83　発行：令和3年3月　福岡市人権啓発センター
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号健康づくりサポートセンター（あいれふ）8階　TEL092(717)1237 FAX092(724)5162
E-mail:jinkenkeihatsu.CAB@city.fukuoka.lg.jp
ココロンセンター 福岡　検索

TEL092(717)1247（人権啓発相談室では人権問題に関する相談及び、研修会や学習内容に関する相談を受け付けています）

法務省委託事業

令和３年３月（春季号）No.83 福岡市人権啓発センター

ココロンセンターだより No.83

CONTENTS「主な内容」

■ なくそう！コロナ差別 …… 1P
■「人と人とがつながり合えるあたたかいまち」を目指して …… 2P
■ 人権尊重作品入選作・人権啓発推進指導員のコーナー …… 3P
■「誰か」のこと じゃない、書籍・おすすめ DVD の紹介 …… 4P

なくそう！コロナ差別

新型コロナウイルス感染症を理由とした
心ない言動等が広がっています。
冷静な行動、助け合い、支え合いのココロで
不当な差別・偏見・いじめを
みんなでなくしましょう。

「ココロン」
（福岡市人権啓発センターマスコットキャラクター）

～ひとりで悩まずにご相談ください～

みんなの人権１１０番　0570-003-110（ゼロ ゼロ みんな の ひゃくとおばん）

福岡法務局 ／ 福岡県人権擁護委員連合会 ／ 福岡市 ／ 福岡・筑紫地域人権啓発ネットワーク協議会

「人と人とがつながり合えるあたたかいまち」を目指して

～西花畑校区人権尊重推進協議会～

西花畑校区には、今でも豊かな自然が残っており、一首の短歌をきっかけに守られた桧原桜は、地元の人たちの誇りです。都市高速道路ができてから、若い世帯が増え人口が急速に増えています。

西花畑校区人権尊重推進協議会は、平成6年（1994年）に設立され、「豊かな心を育てよう～人・地域・自然のつながりの中で～」をテーマに、年3回の研修会、広報紙「やまなみ」の発行、標語やポスターでの啓発活動、秋の灯明まつりなど活発に活動を続けてきました。20年以上続く「声かけあいさつ運動」は、小中高生、高齢者、通勤の地域の方々を見守り、人と人とのつながりを作ってきました。

「灯明まつり2019」

第1回灯明まつりは、平成25年に人尊協20周年記念事業として、子どもから高齢者まで楽しく気軽に参加できるイベントを実施したいという願いから、久屋池で開催されました。区役所や公園管理者の方、そして久屋池近隣の方の理解を得て準備を進めていきましたが、牛乳パックで作る灯ろうを数多く集めるのに苦労しました。しかし西花畑小学校、花畑中学校、そして住民の方々の協力で3000個を超える灯ろうが集まり、当日は久屋池周りに幻想的な光景が出現したのです。さらに、花畑中吹奏楽部の演奏やぜんざいのおもてなしもあり、大成功させることができました。「あたたかい灯明の光を見るとほっとする」「人と人とがつながれる素晴らしい行事です」等継続を望む声も多く、第2回、第3回…と続けています。回を重ねるごとに、中学生が運営に参加したり小学3年生の「無くしたくない地域行事」に選ばれたりするなどして、今では住民から愛される行事となりました。

しかし、今年度は新型コロナウイルスの流行で灯明まつりの開催が危ぶまれました。「集まりたいけど集まれない、つながりたいけどつながれない」という状況だからこそ、人とつながれる新しい形の“灯明まつり”ができないかという声があがりました。実行委員会で知恵を絞り、それぞれの家庭や地域に飾られた灯明をオンライン配信できないかと新しい取り組みにチャレンジしました。ネットに詳しい人などこれまで地域行事に関わっていなかった人達が、男女年齢問わず集まってきて、次々と生じるたくさんの課題を一つ一つ解決してくれました。当日は地元の福祉施設・保育園・集会所をネットでつなぎ、小学生の灯ろう紹介、高校生のオカリナ演奏、中学校吹奏楽部の演奏などを1時間に渡りライブ配信することができました。神奈川県在住の方からフォトコンテストへの応募があり、オンライン配信ならではの広がりを感じました。また、吹奏楽部からは、「今年はコンクールが無くなったが、いい発表の機会になった」という声をいただきました。“灯明まつり2020”の取り組みを通してさらに新たな人と人とのつながりができ、地域の人の輪を広げることができたと感じています。

「西花畑灯明まつり2020」オンライン

これからも、一つ一つの研修会や行事を丁寧に実施していき、校区のみなさんの心が豊かになり、人と人とがあたたかい気持ちでつながり合える地域を目指していきたいと思っています。

（「西花畑灯明まつり2020」は、現在もユーチューブ配信中）

福岡市人権尊重行事推進委員会 主催

令和元年度 福岡市人権尊重作品募集入選作品

なかなおり

わたしは、ひるやすみに、ともだちとおにごっこをしてあそんでいました。すると、ともだちがタッチをしたのに、おにになってくれませんでした。わたしは、いやになって、

「なんで、おにならんと。」

と、つよくいって、けんかしたままかえってしまいました。

つぎのひ、そのともだちにあいました。わたしは、どうしようとどきどきしました。でも、ともだちのめをみて、

「きのうは、ごめんね。」

と、いいました。

「いいよ。わたしもごめんね。」

と、ともだちもいってくれました。よかったとおもいました。こころもすっきりしました。なかなおりができて、うれしかったです。

きょうも、そのともだちと、なかよくおにごっこをしてあそぶやくそくをしています。

アサーションのがくしゅう

わたしは、アサーションのがくしゅうをしました。アサーションとは、じぶんとあいてをたいせつにするいいかたです。アサーションは、いいいいかただとおもいました。

わたしは、きょう、はるとくんに、せなかを二かいたたかれました。すぐに、

「やめて。」

と、いおうとおもったけれど、すぐにいなくなったので、がまんをしました。

でも、きょう、アサーションのがくしゅうをして、

「どうしてたたくの。いたいでしょう。」

と、いえばよかったとおもいました。やすみじかんに、はるとくんに、

「どうして、たたいたの。いたいでしょう。」

と、いってみました。すると、

「ごめんなさい。」

と、あやまってくれました。すっきりしました。これからは、いいにくいかもしれないけれど、アサーションのいいかたができるようにがんばりたいです。

※文中の人名は仮名を使用しています。

人権啓発推進指導員のコーナー

こんな時だから…

今年1月、再び非常事態宣言が出された。3密回避や自粛生活、医療崩壊…。これまでに経験したことがないような状況に直面し、閉塞感や不安感など様々な感情をみんなが味わいながら過ごす日々。

そんなコロナ禍の中で、最近よく聴いている曲に、マーティン・ハーケンスの「You Raise Me Up」という曲がある。あたたかみのある声と優しいメロディー。そして、励ましと愛情に満ちた歌詞が重なって、心にしみてくる。歌詞の解釈にはいろいろあるようだが、私には、こんな時だからこそ、うつむかないで、前を向いて進む勇気をもとうよと励ましてくれているように感じる。

今日、余命幾ばくもない義父とリモートでの面会に立ち会った。妻や兄弟が「お父さん!」と何度も声をかけながら、気持ちを通わせようとするが携帯の画面越しでは反応がよく分からない。あっという間にタイムリミット。義父のそばで支援して下さった看護師さんの「（皆さんの声かけに）うなずいていましたよ。」の言葉に、一同救われたように感じた。

辛い状況や重苦しい雰囲気はまだまだ続くかもしれないが、こんな時だから…相手の気持ちに寄りそうあたたかい言葉がどんなにありがたいことか、つくづく感じている。

（中村）

絵本の世界に見る多様性

名作絵本「スイミー」の作家レオ・レオーニの作品に「あおくんときいろちゃん」という作品があります。青い丸と黄色い丸で描かれた二人の登場人物。以前、読み聞かせをしたとき、色の違う二人が仲良く遊ぶうちにくっついて緑色になっていく場面で、子どもたちが驚きと共に満面の笑顔になった記憶がよみがえってきます。

先日、静岡県三島市の「えほんやさん」が開催したオンライン絵本講座を聴いて、この本には人種差別解消のメッセージが込められているということに驚きました。仲良しになると二つの色が混ざって新しい色が生まれる。それは、違いが生み出す深い価値観や大きな可能性を表しているのでしょう。青や黄色以外の色とりどりの友達も出てきます。レオ・レオーニの絵本はどれも、他と違う自分だけの個性や特徴を大切にしています。そして、それぞれが互いに心を通わせて得られる新しい世界のすばらしさを描いていると感じるのです。

それはまさに、違うことそのものに価値を見出す「多様性から学び合う社会」です。その実現のためには、自分とは違う立場に立って別の角度からも考えることができる想像力が必要です。

あの時、この本を読んで笑顔になった子どもたちは、きっと、異なる者が重なるときに生まれる喜びや心地よさを直感的に学んでいたのではないでしょうか。子どもだけでなく、大人も、絵本の世界から学ぶことは大きいと感じています。

（吉田）